

# STUDIO VOICE

スタジオ・ボイス

MEDIA MIX MAGAZINE

10 Vol.166  
OCTOBER  
1989

ニューヨーク29人+2匹のファッション・ポートレート

## Individuality!

I'm so happy!

合家幸福写真グラフィティ

Renaissance of N.Y. Architecture

NY建築ルネサンスのゆくえ

NEW COUNTRY LIFE

カントリーハウスの週末

Robert Shows Seiko

三上晴子N.Y.デビュー

QUESTION

“ウーマン&ポリティック”

前田日明のHERO'S TIME

渡辺美里

NOUVEAU NOUVEAU ROMAN

浴室 ジャン=フィリップ・トゥサン

対談

李泰榮vs手塚眞

スクリプトのなりドヨマ  
New York

# NEW COUNTRY LIFE

マンハッタンから  
田舎へ移り住んだ  
姉妹のような  
ジュエリーアーティスト

星光のランチ・パーティー 倉田あゆのピクニックのオーガニズーション

photographs by Adam Füss  
N.Y. Editor by  
Hiroko Kawasaki  
Noyuri T. Argabright





イ日本酒を愛しているシル。



物静かなマリィ・パット。若い頃。



友人でもデルのローラ。将来は物書きになりたい。

ニューヨーク一般は、東京人にくらべて多く働いているとは言えない。しかし毎日の生活で緊張を強いられる彼らは、心身ともにリフレッシュするため週末をカントリー・ハウスで過ごすようになってきた。この理想と流行を徹底させた、若い2人のジュエリー・アーティスト、シル&マリィ・パット。オガニツクのポリシーを持つ2人はマンハッタンのアトリエを引き払い、生活と創作のための現場をカントリー・ハウスに移してしまっただけでなく、この時代の都会人のスピリッツを持ち続けようとしている。

彼女たちの家の前の大きな郵便ポストに、石ころで文字を形づくったかわい表札がかかっている。JAMP、二人の名前の頭文字をとったこの名前は、コスチューム・ジュエリーデザイナーとして活動するときのチーム名だ。

シル・パット・マクレーン (Sil Drescher) とマリィ・パット・マクレーン (Mary Patrick) の3人は、ニューヨークの西隣りニュージャージー州に生まれ育った都会っ子である。2人があるパットの店内ディスプレイの仕事を通じて出会ったのが4年前、お互いにクリエイティブなことを、チャレンジしたことが共通していた彼らは、一緒にコスチューム・ジュエリーの製作を始めることになった。

今年に入り、この姉妹のような2人は、街中に持っていたアトリエを引っ越し、マンハッタンから車で2時間は離れた田舎に家を借りる決心をした。見渡す限りの平原

のなかに建っている古い石づくりのファミリー・ハウス。おそろしく、最初は荒れていてあろうか家の内部のあちこちに、自分たちの手で改造された、ちよっとぶさっとした跡が残っている。そこに女の子の服と工夫があふれている。ほんとうに楽しい。

クリエーターの緊張的な生活というよりは、女子生の夏休みのまに見えしまっただけでなく、彼女たちは若くして生活する。たとえばエリック・ローレルの四つ目眼鏡で、初めて出会った日にレネットがミラブルを招く、最初の冒険を思い出してほしい。2人の日常は、もうとてんごころで生活するわけではなく、マリィが2人がきりきり生活する先にはシルの赤いT.O.Y.O.T.A.が停めてあった。ニューヨークの街に出てはビジネスの話をもとめ、友人たちとの会話を恐れない。全体から見れば他人たちとは少し違ったやり方を進んでいる彼女たちだが、実に社交的・開放的。

そして二人が徹底したオガニツクであることも事実である。食卓に上るのは無農薬野菜とナチュラル・フードだけ。どこかに出掛けるときに自分たちの食料、ミネラル・ウォーターを必ず持参する。もちろんお酒もタバコも一切やらない。

この日も彼女たちの発案したオガニツク・キユスターを用意してくれた。きわめて薄い塩と、オリヴァオイルで軽く味付けしたバスタを噛みこいたのある不思議な食糧に、カレー粉をからめたメインディッシュ。自家製のジュース。生地がさらさら甘くないアップルパイ。パンも自分たちで焼いている。

